

Economic Indicators

発表日: 2025年1月24日(金)

日本経済指標: 来週の指標予測と今週の振り返り

～来週は「都区部CPI」「鉱工業生産」などに注目～

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

○来週 (1月27日～1月31日) の主な指標予測

	指標名	当社予測	市場予測	前回結果
1月27日 (月)	14:00 11月景気動向指数改訂値			
	CI先行指数(前月差)	—	—	▲2.1pt
	CI一致指数(前月差)	—	—	▲1.5pt
1月28日 (火)	8:50 12月企業向けサービス価格指数 (前年比)	+3.2%	+3.2%	+3.0%
1月29日 (水)	14:00 12月消費動向調査 消費者態度指数(一般世帯、季調値)	—	—	36.2
1月31日 (金)	8:30 1月消費者物価指数(都区部)			
	東京総合(前年比)	+3.0%	+3.0%	+3.0%
	東京コア(前年比)	+2.4%	+2.4%	+2.4%
	8:30 12月労働力調査 完全失業率	2.5%	2.5%	2.5%
	8:30 12月一般職業紹介状況 有効求人倍率	1.25倍	1.25倍	1.25倍
	8:30 11月サービス産業動向調査 売上高(前年比)	—	—	+2.6%
	8:50 12月商業動態統計・速報 小売業販売額(前年比)	+3.7%	—	+2.8%
	8:50 12月鉱工業指数・速報 生産(前月比)	+0.4%	+0.3%	▲2.3%
	14:00 12月住宅着工統計 新設住宅着工戸数(前年比) (季調値年率)	▲5.2%		▲1.8%
		77.7万戸		77.5万戸

(注) 市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

1月都区部消費者物価指数(生鮮食品除く総合) 当社予想: 前年比+2.4% 中央値: 同+2.4%

CPI コアは前年比+2.4%と、前月と同じ伸びを予想する。外国パック旅行の前年比での押し上げ寄与が剥落する一方、ガソリン・灯油補助金の縮小が押し上げ要因になるほか、食料品価格の高止まりが続く見込みで、CPI コア全体としては前月から上昇率に変化はないだろう。(シニアエグゼクティブエコノミスト: 新家 義貴)

12月完全失業率/有効求人倍率 当社予想: 2.5%/1.25倍 中央値: 2.5%/1.25倍

企業の人手不足感は非常に強い状況が続いており、労働需給は引き締まっている。失業率は低水準での推移が続く見込み。(シニアエグゼクティブエコノミスト: 新家 義貴)

12月鉱工業生産指数 当社予想：前月比+0.4% 中央値：同+0.3%

12月の鉱工業生産は、前月比+0.4%の増加を予想する。前月の落ち込みから2か月ぶりの増加を予想するが、牽引してきた半導体関連の生産や輸出に減速が見られる中で、持ち直しは小幅に留まるだろう。（副主任エコノミスト：大柴 千智）

○今週（1月13日～1月17日）の振り返り

	指 標 名	結果	市場予測	前回結果
1月20日 (月)	8:50 11月機械受注統計 船電除く民需(前月比)	+3.4%	▲0.4%	+2.1%
	13:30 11月第3次産業活動指数 (前月比)	▲0.3%	—	+0.3%
1月23日 (木)	8:50 12月貿易統計 輸出金額(前年比)	+2.8%	+1.7%	+3.8%
	輸入金額(前年比)	+1.8%	+2.6%	▲3.8%
	貿易収支(原数値、億円)	+1,309	▲625	▲1,103
1月24日 (金)	8:30 12月消費者物価指数(全国) 全国総合(前年比)	+3.6%	+3.5%	+2.9%
	全国コア(前年比)	+3.0%	+3.0%	+2.7%

(注) 市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

11月機械受注・船舶電力除く民需

24年11月のコア機械受注は、前月比+3.4%（10月：同+2.1%）となった。事前の市場予想コンセンサス（同▲0.4%）を大きく上回り、2か月連続の上昇となった。今回の結果を受けて、内閣府による基調判断は「持ち直しの動きに足踏みがみられる」から「持ち直しの動きがみられる」に上方修正された。コア機械受注の10-11月平均の値は7-9月期を+2.7%pt上回っており、12月に▲9.3%以下の大幅減少とされない限りは、3四半期ぶりに前期比プラスとなる可能性が高そうだ。

- 詳細は、1/20 発表「機械受注統計調査(2024年11月)～民需(船電除く)は市場予想を上回り2か月連続の増加～」
(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/407552.html>)もご参照ください。

12月貿易統計・貿易収支額(原数値)

24年12月の貿易統計では、輸出金額が前年比+2.8%、輸入金額が同+1.8%となり、貿易収支は+1,309億円の黒字となった。市場予想対比では輸入がやや下振れ、貿易収支額も6か月ぶりの黒字に転じた。また、季節調整値でみると、輸出金額が前月比+6.3%（11月：同▲0.1%）、輸入金額が同+2.2%（11月：同+1.9%）とそれぞれ増加したが、輸出が高めの伸びとなったことで貿易収支が▲330億円（11月：▲3,887億円）と前月から赤字幅が縮小した。

- 詳細は、1/23 発表「貿易統計(2024年12月)～半導体関連の減速で10-12月期実質輸出は3四半期ぶりの減少～」
(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/407658.html>)もご参照ください。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。